

# 研究結果報告書

本研究は、日本語授業研究に焦点を当て、実践場面の課題を解決するための具体的方法について、大連地域の大学に所属している日本語教育関係者の有志が連係して大学間で遠隔共同講義を行うとともに、それぞれの大学生を主たる対象とする受講者同士の討論を取り入れ、大学日本語教育方法の改善にパイオニア的に取り組むことにした研究である。そのため、教育実践研究の多様な発展を背景とした、多様な広範なアプローチの魅力的な講師による協力とご講義がどうしても欠かせない。

本研究が行った通訳訓練法は、なにも、真新しいものではない。基本的には、従来、通訳者を養成・訓練するために使われてきた様々な練習法であり、これまでもさまざまな形で紹介されてきた。だが、通常の日本語通訳訓練法は、通訳スキル向上というものに重点が置かれているため、一般の日本語学習者にはあまり関心を持たれることがなかった。そこで、筆者は、このメソッドを、一般の日本語学習者でも利用できるよう、考察・改良し、段階的な訓練法として、研究を行った次第である。

本研究の実践報告を記述した論文「中国大学の日本語教育における通訳訓練法の応用と展望」では、筆者が2009年より教えている大学での通訳・翻訳訓練法を利用した授業の分析結果を通し、日本語の運用能力を高めるために有効であろうと思われる指導法の提案をするとともに、今後の方向性を指摘している。

本研究の研究成果として事例報告を行った論文の内容は試行錯誤の第一歩に過ぎないが、このような通訳訓練法を外国語教育に応用した授業法は、一定の成果を収めることができた。今更なる後改善を重ねることで、今後の方向性が見出せるのではないかと筆者は思う。今後の課題としては、翻訳の実践によって外国語と母語の能力を同時に高めていく中級以降の授業にどうやって取り組むかに力を入れるべきであろう。

## 研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

「中国大学の日本語教育における通訳訓練法の効果と展望」  
尹貞姫・第10回日本語教育研究世界大会・8月23日・天津外国語大学

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

「中国大学の日本語教育における通訳訓練法の応用と展望」『日本言語文化研究(下)』延辺大学出版社・2012年5月：186 - 197.

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)